

コロナのワクチンは全員が打たなくていいんだよ

2023年8月23日

「職場における健康障害の未然防止」や「快適職場の構築」を進めていくための基盤となる医学的知見について説明していきます。初回は「コロナのワクチンは全員が打たなくていいんだよ」です。

XBB株による第9波も収束しつつあります(政府統計より早い職域での実感)が、次のEG.5(エリス)株がスタンバイしています。とはいえ、誰もがCOVID-19にかかるわけではありません。人種としての日本人のおよそ6割が細胞性免疫であるHLA-A24を遺伝的に保有しており、こういう人たちはまず発症しません。NK細胞などの非特異的免疫がCOVID-19に対してどれだけの防御力を発揮しているかはわかりませんが、COVID-19に感受性を有するのは国民の4割以下ということになります。

COVID-19用のmRNAワクチンは有効性が高く、筋肉内への注射では感染そのものを防ぐことはできないものの、感染しても発症を抑え、重症化を防ぐ効果がきわめて大きいことは確かです。その一方で副反応は強く、過半の接種者に無視できない苦痛をもたらします。また、ワクチンの確保や無償接種のために膨大な国公費が投入されています。したがってワクチンの接種対象者をできるだけ絞り込みたいところです。しかし、HLA-A24の検査は簡単には受けられません。

そこで、中年以降(40歳以上)であれば、今までの風邪罹患歴を振り返るとよいでしょう。コロナウイルスはCOVID-19登場以前から普通の風邪の第二位の原因として存在しており、ライノウイルスに次いで風邪のおよそ15%を占め、毎年1000~2000万人がこのウイルスにより風邪を発症していると推定されます。コロナウイルスによる風邪は比較的年長者に多く、初期から咳が出るのが特徴です。この症状の出方が、のどや鼻の症状から始まって回復期には咳が出ることもあるライノウイルスとは異なります。

咳から始まる風邪に一度もかかったことがなければ、「コロナウイルスに対する抵抗力があるだろう」と考え、ワクチン接種は留保します。かつて咳から始まる風邪またはCOVID-19にかかったことがあれば「感受性がある」と考え、基礎疾患や副反応などを考慮して接種の是非を検討します。なお、ワクチンの効果は接種2週後をピークに漸減し、有効な期間は3~4ヶ月程度です。

細胞性免疫や抗体(液性免疫)を持っていたとしても、手指を介してウイルスを媒介してしまう可能性は残ります。ワクチン接種とは別に、手指衛生は引き続き全員が徹底する必要があります。

COVID-19については、(株)ヘルステック研究所の「Dr.タカちゃんのヘルストーク」にいろいろな情報やコメントを載せておりますので、よろしければご参照下さい。

<https://htech-lab.co.jp/kenkoukansatsu/>